

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより

第71回

大谷寺磨崖仏

板東三十三観音霊場第十九番札所で知られる大谷寺には、本尊の千手観音(大谷観音)のほかに全部で九体の磨崖仏が岩肌(いせ・かみ)に刻まれている。磨崖仏の像容(姿・形)から薬師三尊(薬師如来坐像・日光菩薩立像・月光菩薩立像)が最も古く、平安時代はじめの作であり、続いて大谷寺の本尊である千手観音、そして釈迦三尊(釈迦如来坐像・文殊菩薩立像・普賢菩薩立像)が平安時代中ごろ、阿弥陀三尊(阿弥如来坐像・聖観音菩薩立像・地藏菩薩立像)が平安時代から鎌倉時代のはじめの作と推測される。

大谷寺遺跡発掘調査の時に、縄文・弥生時代をはじめとする

出土品とともに、八一八年鑄造の古銭(富寿神金)、一三六三(貞治二)年と一四一七(応永二十四)年の銘が入った経石、五輪塔二十七基など多数が発掘された。これにより古代から近世にいたるまで、この洞窟が人々の信仰と密接な関係があったことがうかがえる。

大谷寺磨崖仏は九州の大分県国東半島や臼杵の磨崖仏とともに地方仏教文化の秀作といっても過言ではなからう。また、このような巨大な磨崖仏を作ることができたのは、磨崖仏を彫る石材が加工の容易な凝灰岩であったことも無関係ではない。大谷寺磨崖仏群は、国特別史跡・重要文化財に指定されている。



高浮雕された釈迦三尊のひとつ釈迦如来坐像



洞窟に観音堂、脇堂を持つ大谷寺



阿弥陀三尊坐像



薬師三尊坐像